



幼児のための言葉の教育

サントレ通信 vol.6

科学的幼児教育
サントレ
Scientific Training
2013年6月発行
NPO法人日本幼児教育振興會



サントレ教材の制作・監修には、土屋秀宇先生を始め、作曲家の三枝成彰さん、イラストレーターのわたせせいぞうさん、元フジテレビ、エグゼクティブ・アナウンサーの露木茂さんといった、各界で活躍中の著名な方々にもご協力いただき、幼児期から「本物」に触れる教育を心掛けています。

「言葉の教育・サントレ」は、サントレは国語教育の第一人者である土屋秀宇先生が実践されてこられた漢字かな交じりの日本語教育法をベースに、NPO法人日本幼児教育振興會が開発した、幼児のための言葉の教育プログラムです。

サントレは言葉の教育を通じて、子供には：「自分から進んで学べること」先生には：「スムーズな指導ができること」保護者には「子供の成長を実感できること」これらを目指しています。

「美しい心は、美しい言葉から生まれる。」

サントレは子供達の徳性、知性、感性を健やかに育みます。

言葉は、人間だけに与えられた神様からの贈り物。赤ちゃんが母様のお乳を吸って成長するように、子供達の心が豊かに育つかどうかは、ひとえに言葉の栄養をどれだけ与えたかによるのです。

しかし今、子供達の心の荒廃は目に余るものがあります。それは、日本語から美しい調べが失われてきたことと無縁ではありません。それどころか近年は、汚い言葉や殺伐とした言葉が氾濫し、子供達は生まれた時から言葉の環境汚染にさらされ、その純粋で柔らかな心が蝕まれているのです。

幸い、我が国には親から子へ、子から孫へと何代にもわたって受け継がれてきた美しい日本語が、先人の残してくれた童謡唱歌・詩歌・物語のなかに満ちています。折しも、文部科学省が「言葉の教育」を重視し、全ての教育の基盤に位置づけるとともに、「日本の文化・伝統の尊重」を掲げました。子供達の心の根を養うため、幼児期の「言葉の教育」の重要性が見直されているのです。

サントレは遊び感覚で、脳が抵抗なく吸収できる幼児期に、美しい言葉、優しい言葉、尊い言葉を、日々惜

サントレ総合監修者
土屋秀宇先生から皆様へ。

土屋秀宇先生プロフィール
昭和十七年、千葉県生まれ。
昭和四十年、千葉大学教育学部英語科卒業。
船橋市立法典東小学校校長時代に手掛けた実践研究「自ら学ぶ力を育てる漢字指導」が、第四十三回読書教育賞を受賞。
十三年間にわたり小・中学校の校長を歴任するなかで、自閉症児や知的障害児への漢字指導にも力を入れ成果をあげる。千葉県教育功労賞受賞。
「美しい心は、美しい言葉から生まれる。」をモットーに、全国での多数の講演を通じて、幼稚園や保育園の保護者・職員には乳幼児期における言葉の教育の大切さを、小・中学生や先生には「楽しい漢字教室」の出前授業で漢字指導の改善を訴えながら、国語教育の普及に努めている。

NPO法人
日本幼児教育振興會副理事長
国語問題協議會評議員



自分で考える、自分で工夫する子供へ。
劇団東俳は、子役のうちから人間力を育てます。

劇団東俳代表 藤野 珠美

劇団東俳は、テレビや映画、舞台、CMなど、芸能界で活躍する役者やタレントを育てる場所です。井上真央や工藤静香、雛形あきこ、大沢あかねたちが、子役の頃に所属していた劇団です。いまでも、たくさんの子役が活躍しています。子供たちは、現場に行けば大勢の大人たちと、一緒に仕事をするようになります。ですから、現場できちんと挨拶をして、打ち合わせができて、演技ができるように教育しなければなりません。サントレとも「子供の教育」という面で、共通している部分はとても多いと思います。

今の大人たちは、子供が歩いている道に、転ばぬ先の杖を1000本置いてるように思えます。いつも先回りして世話を焼いているように、私には見えるのです。そんな育て方では、子供は転んだときの痛みを、知ることができません。つまり何か壁にぶつかってもそれに耐える力、それ乗り越える力が、いくつになっても身に付かないのです。ですから東俳では、まず親を子供から離します。様々なことを子供が自信をもってできるように教えます。中学生になったら、集合時間も場所も持ち物も自己責任で、ひとりで撮影現場に行かせます。また人との接し方やマナーも、レッスンの時間にトコトン教えていきます。



欲しいから。1000人が1000人、芸能界で成功できるわけではないのです。そのためには子供を、自分の頭で考え、自分の足で歩き、自分で行動できる人間に育てなければなりません。では具体的にどうしたら、あなたの子供が、そうなれるのでしょうか。それを「一緒に探しましょう」と、東俳の親たちに私はいつも言っています。

（この内容はサントレでの講演をもとに制作しています）

東京本社 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-37-13 ひたち野うしくスタジオ 〒300-1207 茨城県牛久市ひたち野東1-7-3 狭山スタジオ 〒350-1317

埼玉県狭山市大字水野142-2 静岡スタジオ 〒420-0034 静岡県静岡市葵区常磐町2-13-2 関西支社 〒540-0027 大阪市中央区錦屋町1-1-1

※狭山・うしく・静岡スタジオ受講希望の方は東京本社へお申込みください。 ※関西地区の方は関西支社へお申込みください。

新人オーディション
見学・体験レッスン実施中
※詳しくはホームページか、右記連絡先へ。

東京本社 TEL 03-3941-5526
関西支社 TEL 06-6941-8555
劇団東俳 検索

芸能界、真剣に考えるなら

劇団東俳

NPO法人 日本幼児教育振興會役員

会 長 鶴田 卓彦 (日本経済新聞社 元会長・社長 横綱審議委員会 前委員長)	理 事 小林 隆幸 (本田技研工業株式会社 元常務取締役)
副 会 長 仁平 圀雄 (財団法人日本交通管理技術協会 会長 元警視總監 元JAF会長)	山田 侑孝 (来迎院住職 横内幼稚園経営者)
富永 靖雄 (横浜ゴム株式会社 元会長)	児玉 圭司 (株式会社スヴェンソン 代表取締役)
	甘竹 秀雄 (株式会社アマタケ 会長 大船渡商工会議所 元会長)
	菊野 善衛 (株式会社サンケイリビング新聞社 元会長)
	安田 吉廣 (元大阪府議会議員)
	竹山 康彦 (株式会社旭屋書店 取締役 産経学園 取締役)
	品川 萬里 (福島県郡山市長 元郵政審議官)
	植木 とみ子 (元福岡県教育長)
	白井 元二 (コモンズ株式会社 元監査役)
	佐藤 公雄 (NPO法人日本幼児教育振興會 指導担当)

去る3月25日・26日の二日間に亘り春の指導者研修会が専修大学神田キャンパスにて開催され、今回も全国から多くの先生方にご参加を頂きました。

「春の指導者研修会」

言葉は心の根っこ

講師 土屋秀宇先生



土屋秀宇先生



DVDを使った実技講習

「目に見えないものこそ大切に」

震災から二年が過ぎ、被災された方々への黙祷が始まった今回の研修会。講師の土屋先生は、研修会の冒頭で当時の新聞記事や、被災地で今も懸命に生きる人々の姿を紹介すると共に、人のルーツである先祖や、祈りの力など「目に見えないもの」の大切さを集まった先生方に話されました。

人にはそれぞれ両親がいて、その両親にもまた親がいる。このようにして25代まで遡ると、三千万人以上の祖先が私達を支えてくれている。これを「三三五五の教え」と言うそうです。

また目に見えない物の代表として「根」を例に、どんな樹木も根がしっかりと張っていなければ枯れたり、倒れてしまうように、人も「根っこ」＝「心」が大切であり、心は言葉によって育まれると土屋先生は言われます。

「徳性とは、人間らしい心」

初日の研修会では、現在の幼児教育の問題点や、そこからのような子供が育っているのか、そして幼児の特長、この時期の言葉の重要性を中心に講義が進められました。

昔の人は心は胸（心臓）にあると考えていましたが、心は脳の前頭前野にあり、それは言葉と共に発達します。なぜ幼児期に言葉の教育が必要なのかを、土屋先生はこの時期の子供の特長と共に説明しています。

幼児期は物を覚える事に対する負担がなく、努力を必要としない時期であり、繰り返しを好み、大人が難しいと思うもののほど、興味や関心を持つのが幼児期なのである。



音を表すカナではなく、意味を表す漢字こそ言葉を覚えるのには最適で、漢字と共に、昔から日本にある美しい言葉をこの時期にたくさん与えることで、徳性が育まれるのです。



二日目の講演の様子

「瞑想は祈りの時間」

二日目は土屋先生と共に、インストラクターの深井南名先生も参加して、サントレ教材の特長を解説して頂きました。土屋先生が特に時間を割いてお話をされていたのが、授業の始めに行う瞑想でした。園児にはまだ「私達の先生」という感覚は無く「私の先生」という見方をしているので、一人ひとりの子供に触れ合う時間を作る事が大切。更に「瞑想の時間は子供達への祈りの時間でもある。」とサントレ教育に瞑想を取り入れた主旨を説明され、「手の掛かる子ほど強く祈って欲しい。」と話されました。

二日間に亘る研修会を通じて、ご参加頂いた先生方は、和やかな雰囲気の中、熱心にメモを取りながら土屋先生の講義に耳をかたむけていました。

特別講演

言葉遣いは、心遣い

講師 神村恵美子先生



神村恵美子先生(日本航空株式会社)

今回の研修会では、特別講演として日本航空株式会社の客室訓練部で新人教育を担当してこられた、神村恵美子先生をお招きして、社会人としてのマナー講習を開催しました。

「接客対応の五原則」

日本航空客室訓練部で指導経験を持つ神村先生の講義は、接客対応の五原則からスタートしました。

- ① 表情、② 視線、③ 話し方、④ 姿勢、⑤ 身だしなみの五つ。人に与える第一印象は半分以上が視覚から入り、そのポイントは「笑顔あふれる挨拶」にあると神村先生は言われます。

笑顔の作り方として、口角を上げること。そのための単語として紹介されていたのが「ウイスキー」。口角が上がり自然な笑顔が作れると言います。また笑顔と真顔の落差に注意する、視線はゆっくり外すなど、ポイントごとに解説をして頂きました。

正しい姿勢のお話では、先生方にもご参加頂いて座り方や立ち方、お辞儀の仕方など、実践を交えながら分かり易くお話をして頂きました。

「身につけたい言葉」

接客対応の五原則の中でも、今回は話し方についてより深くお話し頂き、客室乗務員の方々も実践されている「身につけたい言葉」として次の七つを挙げて頂きました。

- ① 皆さんではなく、皆様
- ② わたしではなく、わたくし
- ③ お待たせ「いた」しました。
- ④ 失礼「いた」します。
- ⑤ 申しわけございません。
- ⑥ 恐れ入りますが、
- ⑦ ありがとうございます。

これらは相手に不快感を与えず、より誠実な印象を与えるそうです。中でも⑥はクッション言葉といわれ、「あいにく」「ご不便をおかけ致しますが」と共に、会話の中で使うと、雰囲気や和らげる働きがあるそうです。

「神村先生から参加者へ」

「客室乗務員も幼稚園・保育園の先生も相手がある仕事をする人は、相手の目線で物事を考えなくてはなりません。言葉遣いや立ち振舞いで、相手の印象が決まります。先生は園を代表していること、そして子供や保護者から常に見られている事を意識しましょう。言葉遣いは心遣いです。一人の社会人として成長することが大切です。」

懇親会

初日の研修会終了後、毎回恒例となっている懇親会が開かれました。

NPO 法人日本幼児教育振興会の鶴田会長、富永副会長を始め、役員も出席しての懇親会では、各園の先生方による研修会初日の感想や園の現状報告、日頃接することができない他の園の先生方と情報交換をする姿も見られました。

宮城県から参加された、ひばり幼稚園の先生による園紹介では、研修会冒頭の黙祷に対する感謝と、復興の最中、懸命にがんばる園児の様子が紹介され、会場からは大きな拍手が送られていました。



福島県郡山市から参加の桔梗保育園の先生方。懇親会後に土屋先生と。



役員、スタッフも参加した懇親会。今回も多くの先生方にご参加を頂きました。

宮城県石巻市

学校法人 ひばり幼稚園

ひばり幼稚園

二〇〇九年からサントレを実践する
ひばり幼稚園は宮城県石巻市にあります。
東日本大震災という大きな困難にも負けず、
園児達は元気に成長しています。



保育参観ではお母さん達も一緒になぞり読み

埼玉県本庄市

学校法人 報徳学園

本庄旭幼稚園

独創的なアイデアで言葉の教育に取り組む、
埼玉県の本庄旭幼稚園。
園歌に込められた子供達への願いは、
先生方の熱意により、着実に実を結んでいます。



瞑想の時間(年長組)



諺カードを使ったビンゴゲーム(年少組)



諺カードを使った神経衰弱(年中組)

毎日の園生活に溶け込む言葉の教育。

園長 上原光江先生

私が初めて「サントレ」に出会ったのは、園長になる前年度の生活発表会を見学した時でした。

この世に生を受け、わずか数年の子供達が、詩や漢詩、福沢諭吉の「学問のすゝめ」等の「群読」を始めとする演目を習得し、堂々と立派に発表している姿に驚き、感動しました。

そして、園児達はどうしてそんな素晴らしい能力を持っているのか、若い先生達が、どのように指導しているのか関心を持ちました。

サントレ実施園の中でも、目覚ましい成果を上げている幼稚園ということも知らず、幼稚園での勤務経験のなかった私は期待と不安の中、二ヶ月後、園長に着任しました。

そこは、畑に囲まれた広い園庭、たくさんのお遊具の中で、元氣よく遊ぶ園児達のにぎやかな声と、笑顔があふれている場所でした。特別な子供達、特別な先生がいるわけでもなく、定員八十名の小さな幼稚園。近隣の幼稚園と違っているのは、毎日二十分間「言葉の教育」を続けていることでした。

三十年以上も前に作られた園歌の歌詞の中に「明日ののぞみに生きる子が、今日も楽しく学びます」というフレーズがあります。この歌詞のように、本園の子供達は、本当に毎日楽しくサントレの学習をしています。

大震災を乗り越えた園児達。

教務主任 岡田浩子先生

サントレを始めてから4年目の春を迎えました。最初は正直「幼稚園児に漢字？」という疑問を持ちましたが、理事長、園長の後押しもあり平成二十年十二月に試験的に始めてみました。当時は各クラスにDVDプレイヤーが無かったため、映像教材は職員室から全クラスに一斉配信し、各学年同じ教材を使う変則的なスタートでした。

その後も「これでいいのだろうか？」という不安が募るばかりでしたが、日本幼児教育振興会の皆様にご指導いただき、私達も自信をもって取り組むことができました。また、保護者の理解も必要と考え、土屋先生をお招きし、講演会を開催いたしました。

二十分間の見学後、指導、助言をいただき土屋先生のお言葉一つ一つが心に響きました。中でも「言葉は幼児の心を育てる母乳である」という言葉は感心すると共に、私自身も身が引き締まる思いでした。

その後もサントレ参観日を設け、土屋先生には保護者に分かり易くお話しをしていただきました。

新入園児の保護者説明会ではサントレを紹介しました。「うちの子はできるかな?」「凄いいね!」と感想は様々。でも数年後にはサントレに出逢えて良かったと思っただき、これからの生きる力になればと思います。

震災を乗り越えて

震災から二年が過ぎ、三月卒園した子供達は、園に残っていた時に激しい揺れに見舞われ、一週間以上家に帰れなかったり、親に会えない子供もいました。ひばり幼稚園の卒園式では三年前から、お別れの言葉の中に群読を入れています。宮澤賢治の「雨にも負けず」は小学校入学前には全員が覚え、昨年度はこの他にも谷川俊太郎さんの「生きる」も群読しました。あの大震災を乗り越えた一二十八名の卒園児の力強い「生きる」は今も私の耳に残っています。

保護者の皆様から

●「本に興味をもたない子でしたが、サントレを始めてから本が好きになり、新聞も読んだりしています。」

●「サントレで言葉の世界が広がり、集中力も高まりました。」

●「サントレは読む力が身につく、家でも本を読む機会が増えています。」

●「サントレのお陰で、読み書きに興味があり、『あれ?いつの間に覚えただろう』と感心します。」

●「弟や妹が漢字かな交じりの絵本を読んだり、高校で習うような漢詩を言っている姿に、お兄ちゃんは何で僕達の時はサントレが無かったのかな?」と不満そうです。親としてはもっと早くサントレに出会えていたらと思います。」

園生活の中に自然とサントレが溶け込んでいくようです。

園長として私が誇れるのは、園児そして先生達です。どの先生も子供の目線に立ち、園児一人ひとりの関わりを大切にしています。そして、何よりも、子供達をほめることが、とても上手だなと関心しています。先生にはめられて、満ち足りた表情で笑顔を見せる我が子を見ているためか、保護者ともよい関係を保っています。園児、保護者、教諭が素晴らしく調和しているので、本庄旭幼稚園はきらきらと輝きを放っているのだと思います。

漢文検定はマスコミも注目

一昨年度からスタートした湯島聖堂の「漢文検定」は、年長組の桜組全員が受検し、見事全員合格を果たしました。地元のケーブルテレビが撮影に訪れたり、東京新聞の記者が取材に来て、翌日の紙面を飾りました。昨年度は一月に検定を受検し、一昨年に引き続き全員合格しました。

卒園児の感想

昨年の十一月、地元の女子中学生三名が、学校行事として三日間の社会体験に来ました。三名とも明るく素直な本園の卒園児で、終了後、お礼の手紙が届きました。「中学生でも難しい漢字や詩の勉強をしていて驚いた。私達の時にも、サントレの学習があればよかった。」と悔しがっている様子が書いてありました。

三重県津市

学校法人 山田学園

清泉幼稚園

三重県津市にある清泉幼稚園は、創立以来半世紀近い歴史を持つ幼稚園です。園長の上島先生を始め、熱心な先生方の指導で、園児たちは言葉の教育に取り組んでいます。



なぞり読みをする年少の園児達

無限に広がる子供達の可能性を信じて。

園長 上島健司先生

清泉幼稚園は、平成二十五年四月で創立四十九周年を迎えました。創立当初より山田与蔵初代園長が子供達の無限の可能性を信じ、「言葉の教育の素晴らしさを清泉幼稚園にも」と言葉の教育を取り入れてきました。

先生方も熱心に取り組む、講師もお招きして研修などもやってきましたが、少しマンネリ化し、変化に乏しい時期にサントレと出会いました。そして直ぐに取り組むことにしました。サントレは今までの方法と違いDVDを使用し、瞑想から入り短歌や俳句、漢詩なども内容的に子供が親しみやすいものとなり、今ではサントレが大好きになりました。

先生方のご意見・ご感想

- 「子供達が変わってきた。教材が取り組みやすく親しみやすい。」
- 「先生が書いた保護者向けの書類を読んでいるのには驚いた。」
- 「指導しやすく分かりやすい。」
- 「サントレ教材は他の保育にも十分活用できると思う。」

実際に子供を指導する先生方からも様々な声が聞こえてきます。

これからも子供達の無限の可能性を信じて、サントレ教育に進進していきたいと考えています。

小学国語読本

ふみのちから（全十八巻）

「小学生になってもサントレ教育を続けたい。」
というご要望にお応えして、土屋秀宇先生監修による、
小学生のためのサントレ読本ができました。

サントレの監修者である土屋秀宇先生は、言葉の教育は幼・小を通じて行うことが大切であると言われています。日本幼児教育振興会では、土屋秀宇先生監修による小学国語読本「ふみのちから」を発行し、小学校でもサントレによる日本語教育を継続して実践できる環境を整えました。

日本語には感情や情景の様々な違いを言い表す言葉が、数多く存在しています。巻末の「日本語たんけん」では季節を表す言葉や、自然を表す様々な大和言葉も紹介しています。小学生は読書感想文を書いたり、夏休みや冬休みは日記をつけたり、授業の中で自分の意見を発表する機会が増えていきます。語彙（内言語）が豊かであれば表現力はより高まります。

小学国語読本「ふみのちから」は、古典を重視した内容で、日本語はもちろん、日本そのものを学ぶための読本でもあります。



小学国語読本「ふみのちから」

イメージキャラクター
サントレちゃん

サントレ王国の王子様。子供達の夢と未来を託されています。通りすぐりの家来と、自然を破壊する悪者と戦って明るく太陽いっぱいの国を作っていきます。漢字大臣の教えで言葉を学び、教育大臣に就く武道を学んでいます。

二歳児用教材の制作時に、サントレをもっと身近に感じてもらうと、絵本の監修をしていただいている、わたせせいぞう先生にお願いして、イメージキャラクター「サントレちゃん」を描いていただきました。「サントレちゃん」は明るく元気な子供達を応援するために、絵本やサントレ通信で活躍していきます。どうぞよろしくお願いします。

編集一後一記

サントレが始まった二〇〇八年四月から、振興会の活動報告のために発行してきたサントレ通信を、ご家庭でもご愛読頂くために、誌面を刷新いたしました。全国の子供達の成長を、より多くの保護者の皆様に実感頂ける誌面作りを心掛けてまいります。

サントレがスタートした当時、年少さんだった子供達も、早いものでこの春から小学三年生になります。そんなサントレOB・OGの姿も、いつかご紹介できればと思います。

また本号制作に当たって、ご協力いただいた幼稚園関係者の皆様には、改めて御礼申し上げます。

科学的幼児教育・サントレ 教材監修者のご紹介

管弦楽選曲 三枝 成彰



幅広いジャンルで活躍する、人気作曲家。大友直人指揮東京交響楽団の演奏会録音の中から、幼児のための瞑想楽曲を選曲。
■東京音楽大学教授
■神戸女子大学客員教授

管弦楽指揮 大友 直人



教育活動にも精力的な国際派。古典からポピュラーなどレパートリーは幅広い。
■東京交響楽団常任指揮者
■京都市交響楽団桂冠指揮者
■東京文化会館音楽監督

朗読監修 露木 茂



元フジテレビエグゼクティブアナウンサー。教育から芸術・芸能、スポーツ、政治まで深い造詣は全般にわたる。
■東京国際大学教授
■早稲田大学客員教授

朗読監修 八木 亜希子



元フジテレビアナウンサー。2000年4月よりフリーアナウンサーとしてテレビ、ラジオ、映画など幅広い方面で活躍中。

絵本監修 わたせせいぞう



日本を代表するイラストレーター・漫画家。ミュージシャンとのコラボレーションによるアニメーションなど、作品多数。

歌唱監修 岡崎 裕美



NHK教育テレビ「なかよしリズム」で歌のお姉さんを担当。
■元平成音楽大学教授(声楽科・幼児音楽教育学科)
■第23回日本童謡賞特別賞受賞
■第10回日本文化大衆音楽児童謡部門グランプリ受賞



DVDを使った短歌のなぞり読み

保護者の皆様から

- 「始めに行う瞑想の時間は子供が落ち着く方法としては大変良いと思う。」
- 「土屋先生のお話を聞いて、なぜ平仮名ではダメなのか、サントレの目指すものが何なのか良く分かる。」
- 「清泉幼稚園に入園させなかったら、幼児教育の本当の意味での大切さが分からなかったと思う。」
- 「サントレの絵本はとても良いと思います。家でもよく本を読んでいるの姿を見かけるので本が好きになったと思う。どこへいったのかな？と思ったら本を読んでいることがある。」
- 「家でも漢字カードをやっている。」